

調 査 結 果

(団 体)

問1 貴団体がやっている環境関連活動についてお伺いします。

設問内容

問1 貴団体がやっている環境関連活動は次のうちどれですか。

次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

また、○をつけた活動については、年間の活動回数と活動規模（参加人数）をお書きください。

	活 動 項 目	年間の 活動 回数	活動規模 (参加人数)	
			平均人数	最大人数
1	地球温暖化など地球規模の環境問題に関する活動	回	人	人
2	大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害対策に関する活動	回	人	人
3	森林・河川などの豊かな自然環境の保全に関する活動	回	人	人
4	省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動	回	人	人
5	学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動	回	人	人
6	身近な生きもの（動植物など）の保全に関する活動	回	人	人
7	ごみ清掃に関する活動	回	人	人
8	環境にやさしいライフスタイルの普及に関する活動	回	人	人
9	その他 ()	回	人	人

解析結果

団体が行っている環境活動については、「ごみ清掃に関する活動」が15団体(44.1%)で年間活動数388回が最も多い回答でした。次いで「学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動」12団体(35.3%)年間活動数126回、「省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動」9団体(26.5%)年間活動数306回となっています。【表1①参照】

一方、活動する団体が少なかったのは「身近な生きもの（動植物など）の保全に関する活動」3団体(8.9%)年間活動数8回と「大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害対策に関する活動」3団体(8.9%)年間活動数は不明でした。【表1①参照】

活動規模は、平均参加人数「～10人」が24団体、「～30人」が23団体と小規模活動が多く、活動項目「ごみ清掃に関する活動」と「環境にやさしいライフスタイルの普及に関する活動」には、「200人～」の大規模活動が3団体ありました。【表1②参照】

また、最大参加人数の回答では、「～30人」が19団体で最も多く、「～100人」と「200人～」も8団体に増え、ほとんどの活動が100人を超える規模となっています。【表1③参照】

「その他」には、「ゴミ分別の学習。」、「海の森づくりの推進活動。」、「花いっぱい運動（花だんづくり）。」、「緑化コンクールを通して、花・樹木を育て、緑豊かな町づくり活動。」、「有機農業の普及。」、「活動は中国国内の砂漠化、不良土壌、不良環境（生態系）の修復業で行っています。参加者は中国の人々です。関係者（大学、研究機関、行政）。」という活動が挙げられました。

表 1①

項目	N=34	回答数	回答率	年間活動数
7 ごみ清掃に関する活動		15	44.1%	388
5 学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動		12	35.3%	126
4 省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動		9	26.5%	306
1 地球温暖化など地球規模の環境問題に関する活動		7	20.6%	116
3 森林・河川などの豊かな自然環境の保全に関する活動		5	14.7%	27
8 環境にやさしいライフスタイルの普及に関する活動		5	14.7%	23
2 大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害対策に関する活動		3	8.8%	-
6 身近な生きもの（動植物など）の保全に関する活動		3	8.8%	8
9 その他		6	17.6%	8
無回答		5	14.7%	-
計		70	205.8%	1,002

図 1①

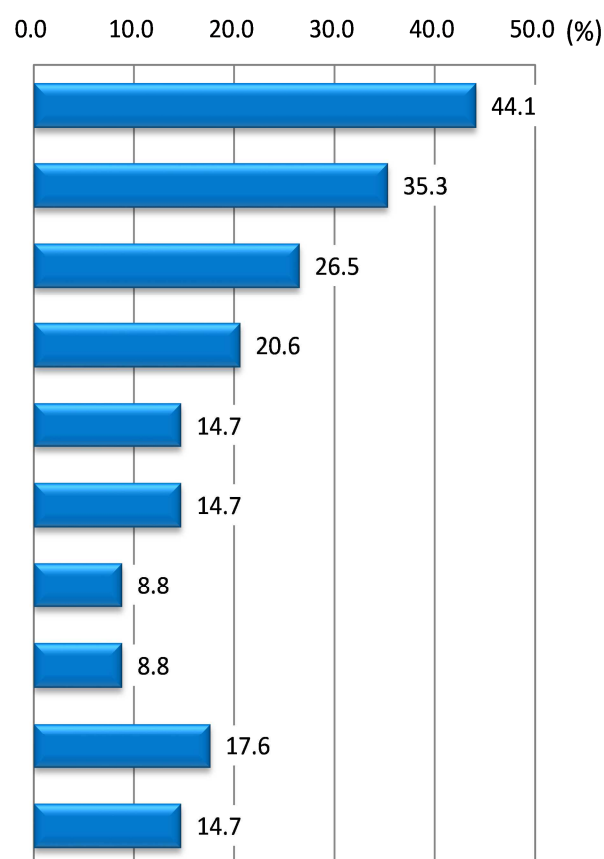


表 1② 平均参加人数

	活動項目	回答 団体数	～10人	～30人	～50人	～100人	～150人	～200人	200人～	無回答
1	地球温暖化など地球規模の環境問題に関する活動	7	3	3	-	-	-	-	-	1
2	大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害対策に関する活動	3	1	2	-	-	-	-	-	-
3	森林・河川などの豊かな自然環境の保全に関する活動	5	1	2	-	-	1	-	-	1
4	省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動	9	5	4	-	-	-	-	-	-
5	学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動	12	4	6	2	-	-	-	-	-
6	身近な生きもの（動植物など）の保全に関する活動	3	1	1	-	1	-	-	-	-
7	ごみ清掃に関する活動	15	6	3	1	1	1	-	2	1
8	環境にやさしいライフスタイルの普及に関する活動	5	3	1	-	-	-	-	1	-
9	その他	6	-	1	1	-	-	-	1	3

表 1③ 最大参加人数

	活動項目	回答 団体数	～10人	～30人	～50人	～100人	～150人	～200人	200人～	無回答
1	地球温暖化など地球規模の環境問題に関する活動	7	-	2	2	-	-	-	1	2
2	大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害対策に関する活動	3	1	1	1	-	-	-	-	-
3	森林・河川などの豊かな自然環境の保全に関する活動	5	-	1	1	1	1	-	-	1
4	省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動	9	1	4	-	-	-	-	1	3
5	学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動	12	1	3	1	4	-	1	1	1
6	身近な生きもの（動植物など）の保全に関する活動	3	-	1	-	1	1	-	-	-
7	ごみ清掃に関する活動	15	1	4	1	2	-	-	3	4
8	環境にやさしいライフスタイルの普及に関する活動	5	1	3	-	-	-	-	1	-
9	その他	6	-	-	-	-	-	1	1	4

問2 環境分野についてお伺いします。

設問内容

問2 貴団体が関心のある環境分野は、次のうちどれですか。

次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 地球温暖化など地球規模の環境問題
- 2 ごみや産業廃棄物の処理やリサイクル
- 3 大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害問題
- 4 公園や街並みの整備などゆとりと潤いのある環境の創出
- 5 豊かな自然環境の保全
- 6 身近な生きものの保全
- 7 貴重な野生動植物の保護
- 8 太陽光や風力など自然エネルギーの活用
- 9 人と自然が共生する快適環境の創造
- 10 有害化学物質や環境ホルモンなどによる環境汚染
- 11 不法投棄など廃棄物の不適正処理
- 12 大雨、大雪などの異常気象
- 13 空き家、空き地、耕作放棄地などの未利用地の増加
- 14 その他（具体的に_____）

解析結果

関心ある環境問題については、「公園や街並みの整備などゆとりと潤いのある環境の創出」17 団体(50.0%) が最も高い回答となりました。次いで「豊かな自然環境の保全」16 団体(47.1%)、「人と自然が共生する快適環境の創造」15 団体(44.1%)、「ごみや産業廃棄物の処理やリサイクル」14 団体(41.2%)の3項目が4割台の回答となりました。

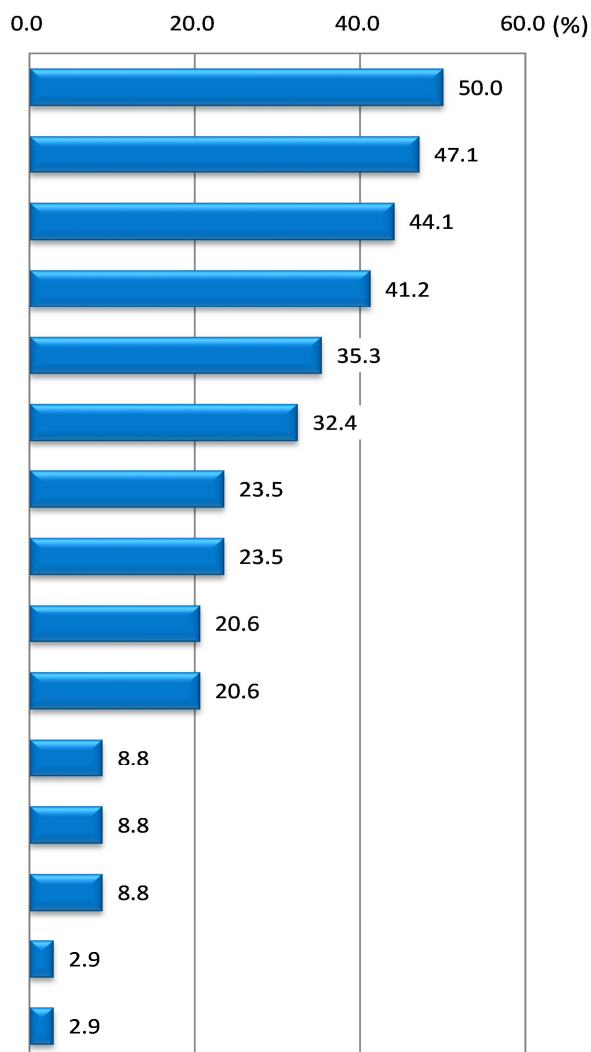
一方、低い回答は「貴重な野生動植物の保護」、「有害化学物質や環境ホルモンなどによる環境汚染」、「大雨、大雪などの異常気象」の3項目が3団体(8.8%)でした。【表2参照】

「その他」には、「有機農業、環境保全型農業。」という分野が挙げられました。

表 2

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	4	公園や街並みの整備などゆとりと潤いのある環境の創出	17	13.5%	50.0%
2	5	豊かな自然環境の保全	16	12.7%	47.1%
3	9	人と自然が共生する快適環境の創造	15	11.9%	44.1%
4	2	ごみや産業廃棄物の処理やリサイクル	14	11.1%	41.2%
5	1	地球温暖化など地球規模の環境問題	12	9.5%	35.3%
6	13	空き家、空き地、耕作放棄地などの未利用地の増加	11	8.7%	32.4%
7	3	大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音、振動などの公害問題	8	6.3%	23.5%
8	8	太陽光や風力など自然エネルギーの活用	8	6.3%	23.5%
9	6	身近な生きものの保全	7	5.6%	20.6%
10	11	不法投棄など廃棄物の不適正処理	7	5.6%	20.6%
11	7	貴重な野生動植物の保護	3	2.4%	8.8%
12	10	有害化学物質や環境ホルモンなどによる環境汚染無回答	3	2.4%	8.8%
13	12	大雨、大雪などの異常気象	3	2.4%	8.8%
14	14	その他（具体的に	1	0.8%	2.9%
		無回答	1	0.8%	2.9%
		計	126	100.0%	370.5%

図 2



問3 ごみ問題についてお伺いします。

設問内容

問3 ごみ問題についてお伺いします。ごみの減量を促進するため、どのような取組を行うことがより効果的であると思いますか。
次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 日常生活の中でごみの減量（レジ袋をもらわないなど）に積極的に取り組む
- 2 消費者が、壊れにくく長持ちする製品を購入し、壊れても修理して長く使う
- 3 消費者が、再生原料を使用した製品やリサイクルが行いやすい製品を購入する
- 4 ごみの分別収集や資源回収を徹底する
- 5 事業者が、長く利用できる製品やリサイクルが簡単な製品の開発や提供を行う
- 6 事業者が、生産から廃棄まで責任を持ち、資源ごみの回収などを行う
- 7 その他（具体的に_____）

解析結果

ごみの減量を促進する効果的な取組については、市の取組となる「ごみの分別収集や資源回収を徹底する」23団体(67.6%)が最も高い回答となりました。次いで市民の取組となる「日常生活の中でごみの減量（レジ袋をもらわないなど）に積極的に取り組む」（61.8%）と事業者の取組となる「事業者が、生産から廃棄まで責任を持ち、資源ごみの回収などを行う」（61.8%）の2項目も6割を超えた高い回答となりました。

一方、低い回答は「消費者が、壊れにくく長持ちする製品を購入し、壊れても修理して長く使う」が7団体(20.6%)でした。【表3参照】

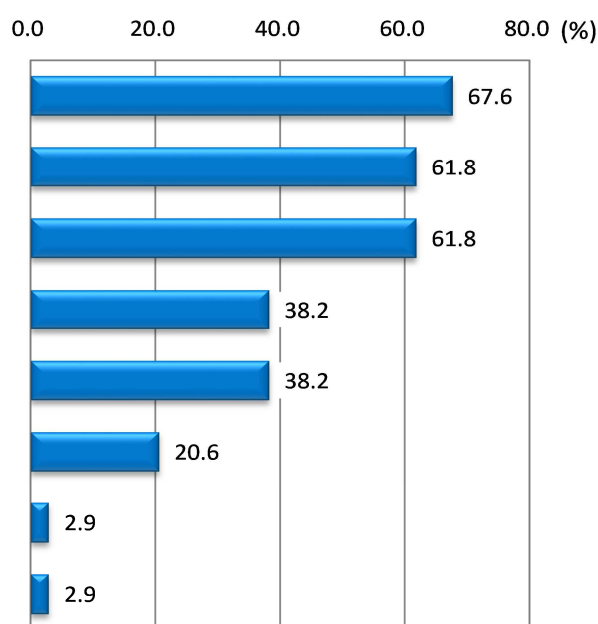
「その他」として「民間、行政が一体としての取り組みの先に見えるメリット（減らすことの、分別することの面倒臭さを乗り越えた先にはなど）が、一般の消費者には伝わっていないと思う。」という意見が挙げられました。

ごみの減量を促進するためには、市、市民、事業者それぞれの取組が一体となることが重要と考えられます。

表 3

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	4 ごみの分別収集や資源回収を徹底する		23	23.0%	67.6%
2	1 日常生活の中でごみの減量（レジ袋をもらわないなど）に積極的に取り組む		21	21.0%	61.8%
3	6 事業者が、生産から廃棄まで責任を持ち、資源ごみの回収などを行う		21	21.0%	61.8%
4	3 消費者が、再生原料を使用した製品やリサイクルが行いやすい製品を購入する		13	13.0%	38.2%
5	5 事業者が、長く利用できる製品やリサイクルが簡単な製品の開発や提供を行う		13	13.0%	38.2%
6	2 消費者が、壊れにくく長持ちする製品を購入し、壊れても修理して長く使う		7	7.0%	20.6%
7	7 その他		1	1.0%	2.9%
	無回答		1	1.0%	2.9%
	計		100	100.0%	294.0%

図 3



問4 水環境の保全についてお伺いします。

設問内容

問4 水環境の保全についてお伺いします。水環境を守るため、市はどのような取組に力を入れていくことが望ましいと思いますか。
次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 工場・事業場からの排水に対する規制・監視を強化する
- 2 下水道、農業集落排水施設、浄化槽などの整備を進める
- 3 水質浄化などの技術開発を進める
- 4 家庭でできる生活排水対策（調理くずや食用廃油を流さないことなど）を進める
- 5 河川清掃活動を進める（ごみの投げ捨て防止の呼びかけなども含む）
- 6 森林や里山、農地を守る
- 7 身近な河川や水辺の整備など豊かな水環境づくりを進める
- 8 水質を守る活動に取り組む企業・団体への支援・連携を進める
- 9 その他（具体的に_____）

解析結果

水環境を守るために市に望む取組については、「家庭でできる生活排水対策（調理くずや食用廃油を流さないことなど）を進める」が5割で最も高い回答となりましたが、他の項目も3割～4割台の回答でほぼまんべんなく回答されています。

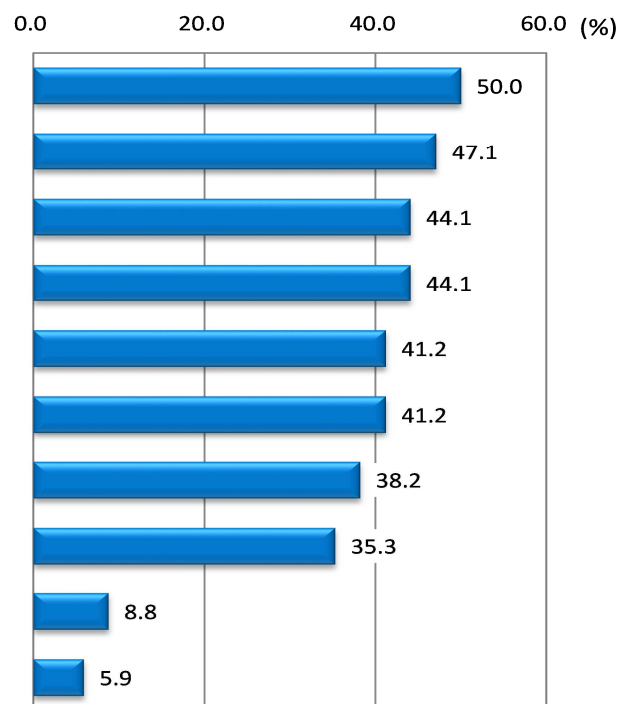
【表4参照】

「その他」には「農業、漁業、林業などによる水質汚染防止の強化。」、「子ども達にむけた環境学習。」、「田んぼから出る水を、そのまま川に流さないことを徹底する。」という取組が挙げられました。

表 4

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	4 家庭でできる生活排水対策（調理くずや食用廃油を流さないことなど）を進める		17	14.0%	50.0%
2	2 下水道、農業集落排水施設、浄化槽などの整備を進める		16	13.2%	47.1%
3	1 工場・事業場からの排水に対する規制・監視を強化する		15	12.4%	44.1%
4	6 森林や里山、農地を守る		15	12.4%	44.1%
5	5 河川清掃活動を進める（ごみの投げ捨て防止の呼びかけなども含む）		14	11.6%	41.2%
6	7 身近な河川や水辺の整備など豊かな水環境づくりを進める		14	11.6%	41.2%
7	3 水質浄化などの技術開発を進める		13	10.7%	38.2%
8	8 水質を守る活動に取り組む企業・団体への支援・連携を進める		12	9.9%	35.3%
9	9 その他		3	2.5%	8.8%
	無回答		2	1.7%	5.9%
	計		121	100.0%	355.9%

図 4



問5 地球温暖化対策についてお伺いします。

設問内容

問5 地球温暖化対策についてお伺いします。地球温暖化を防止するため、市はどのような取組に力を入れていくことが望ましいと思えますか。
次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 省エネルギー機器や省エネ型建築物などを広める
- 2 太陽光発電、燃料電池、バイオマスエネルギーなど新エネルギーを広める
- 3 自家用車から公共交通への転換など自動車に過度に依存しない交通施策を進める
- 4 自転車の利用促進のために駐輪場の整備や自転車道・自転車レーンの整備を進める
- 5 森林を守る取組や緑化を進める
- 6 ごみ減量のための3R（リデュース、リユース、リサイクル）対策を広める
- 7 環境問題に取り組む企業・団体の活動や連携を支援する
- 8 地球温暖化対策に関するPR・情報発信を積極的に進める
- 9 その他（具体的に_____）

解析結果

地球温暖化を防止するために市に望む取組については、「自家用車から公共交通への転換など自動車に過度に依存しない交通施策を進める」が19団体(55.9%)と「太陽光発電、燃料電池、バイオマスエネルギーなど新エネルギーを広める」が18団体(52.9%)と5割以上の高い回答となりました。次いで「自転車の利用促進のために駐輪場の整備や自転車道・自転車レーンの整備を進める」、「森林を守る取組や緑化を進める」、「ごみ減量のための3R（リデュース、リユース、リサイクル）対策を広める」の3項目が16団体(47.1%)と続いています。【表4参照】

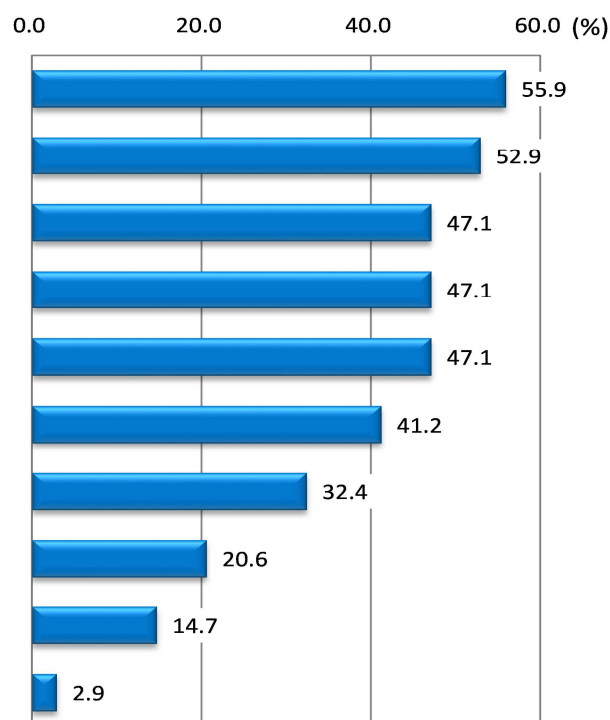
「その他」には「4月から10月までの気候のいい時期を、市職員のマイカー通勤を禁止する…公共交通及び自転車通勤。」、「各種取組への宣言（方針）を対策施策として、明確に位置づける。」、「子ども達にむけた環境、温暖化対策学習。」などの取組5件が挙げられました。

その他回答にもあるように「自家用車の公共交通転換」や「自転車利用の促進」などの交通施策への関心が高いことがうかがわれました。【表4参照】

表5

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	3 自家用車から公共交通への転換など自動車に過度に依存しない交通施策を進める		19	15.5%	55.9%
2	2 太陽光発電、燃料電池、バイオマスエネルギーなど新エネルギーを広める		18	14.6%	52.9%
3	4 自転車の利用促進のために駐輪場の整備や自転車道・自転車レーンの整備を進める		16	13.0%	47.1%
4	5 森林を守る取組や緑化を進める		16	13.0%	47.1%
5	6 ごみ減量のための3R（リデュース、リユース、リサイクル）対策を広める		16	13.0%	47.1%
6	7 環境問題に取り組む企業・団体の活動や連携を支援する		14	11.4%	41.2%
7	8 地球温暖化対策に関するPR・情報発信を積極的に進める		11	8.9%	32.4%
8	1 省エネルギー機器や省エネ型建築物などを広める		7	5.7%	20.6%
9	9 その他		5	4.1%	14.7%
	無回答		1	0.8%	2.9%
	計		123	100.0%	361.9%

図5



問6 自然環境についてお伺いします。

設問内容

問6-1 自然環境を守るため、市はどのような取組に力を入れていくことが望ましいと思いますか。次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 自然環境保全のための規制（採取・捕獲の禁止、保護区の設定など）を強化する
- 2 自然にふれあい、自然を理解するための学習会やツアーの企画などを行う
- 3 自然環境保全に取り組む企業や団体の活動を支援する
- 4 学校や社会教育における自然環境保全に関する教育を充実する
- 5 自然の仕組みや大切さなどをわかりやすく解説する専門家（ガイドなど）を育成する
- 6 自然環境を回復・復元するような公共工事を進める
- 7 地域の生態系などに害を及ぼすもの、又は、及ぼす恐れのある外来生物をできるだけ駆除する
- 8 森林や農地の保全を進める
- 9 自然環境の現状や自然環境を守るための取組について、積極的に情報発信する
- 10 その他（具体的に_____）

解析結果

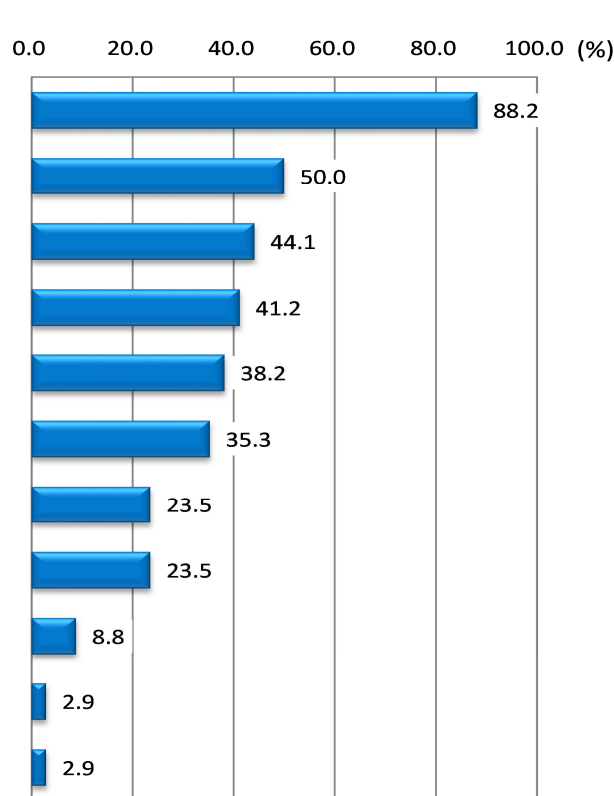
自然環境を守るために市に望む取組については、「学校や社会教育における自然環境保全に関する教育を充実する」が30団体(88.2%)と他の取組と比べ飛びぬけて高く約9割を占めています。団体が行っている環境活動（問1）でも第2位「学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動」12団体(35.3%)年間活動数126回と回答【表1参照】しているように、自然環境を守るため、「環境教育への取組の充実」を求めています。【表6-1参照】

「その他」には、「子供たちが自然の中で思いきり遊ぶ機会を多くもうける。」という回答が挙げられました。

表 6-1

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	4 学校や社会教育における自然環境保全に関する教育を充実する		30	24.5%	88.2%
2	3 自然環境保全に取り組む企業や団体の活動を支援する		17	13.9%	50.0%
3	2 自然にふれあい、自然を理解するための学習会やツアーの企画などを行う		15	12.3%	44.1%
4	9 自然環境の現状や自然環境を守るための取組について、積極的に情報発信する		14	11.5%	41.2%
5	8 森林や農地の保全を進める		13	10.7%	38.2%
6	5 自然の仕組みや大切さなどをわかりやすく解説する専門家（ガイドなど）を育成する		12	9.8%	35.3%
7	6 自然環境を回復・復元するような公共工事を進める		8	6.6%	23.5%
8	7 地域の生態系などに害を及ぼすもの、又は、及ぼす恐れのある外来生物をできるだけ駆除する		8	6.6%	23.5%
9	1 自然環境保全のための規制（採取・捕獲の禁止、保護区の設定など）を強化する		3	2.5%	8.8%
10	10 その他		1	0.8%	2.9%
	無回答		1	0.8%	2.9%
	計		122	100.0%	358.6%

図 6-1



設問内容

問6-2 地域における生物多様性を保全していくために、市はどのような取組に力を入れていくことが望ましいと思いますか。

次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 地域の貴重な動植物の保護・保全活動
- 2 里山や身近な自然環境を管理したり、新たにビオトープ（生きものの生息環境）を作る活動
- 3 地域の生態系などに被害を及ぼすもの、又は、及ぼす恐れがある外来生物の積極的な駆除活動
- 4 地域の生きものの観察会の開催
- 5 子どもたちに生物多様性の重要性を知らせる学習会の開催
- 6 生物多様性に関する積極的な情報発信
- 7 その他（具体的に_____）

解析結果

生物多様性を保全のために市に望む取組については、「子どもたちに生物多様性の重要性を知らせる学習会の開催」が27団体(79.4%)と他の取組と比べ高く8割を占めています。【表6-2参照】

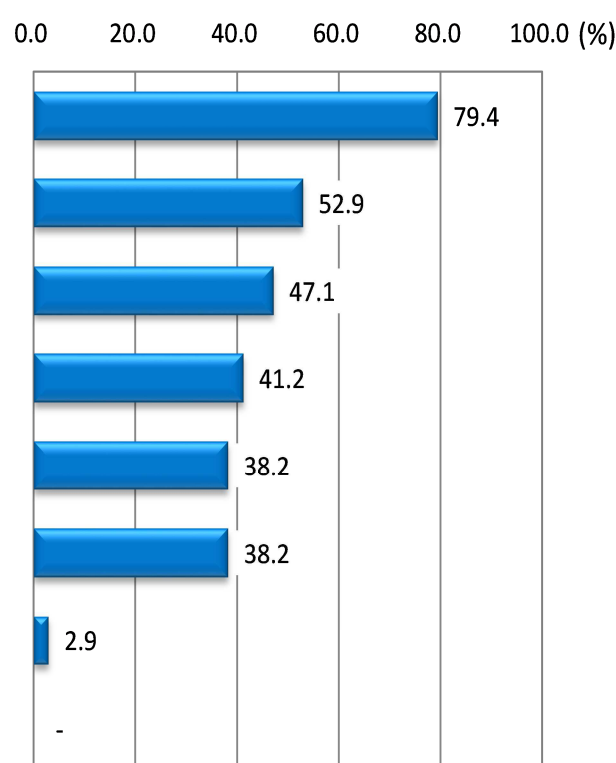
団体が行っている環境活動(問1)の回答2位に「学校や住民向けの環境学習の推進に関する活動」12団体(35.3%)年間活動数126回と回答しているように【表1参照】、生物多様性保全のため「環境教育への取組の充実」を求めています。

「その他」には、「田んぼの生き物調査や有機農業の推進。」という回答が挙げられました。

表6-2

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	5 子どもたちに生物多様性の重要性を知らせる学習会の開催		27	26.6%	79.4%
2	1 地域の貴重な動植物の保護・保全活動		18	17.6%	52.9%
3	2 里山や身近な自然環境を管理したり、新たにビオトープ（生きものの生息環境）を作る活動		16	15.7%	47.1%
4	6 生物多様性に関する積極的な情報発信		14	13.7%	41.2%
5	3 地域の生態系などに被害を及ぼすもの、又は、及ぼす恐れがある外来生物の積極的な駆除活動		13	12.7%	38.2%
6	4 地域の生きものの観察会の開催		13	12.7%	38.2%
7	7 その他		1	1.0%	2.9%
	無回答		-	-	-
	計		102	100.0%	299.9%

図6-2



問7 秋田市の環境像についてお伺いします。

設問内容

問7 望ましい秋田市の環境像についてお伺いします。
 将来の秋田市の環境に対してどのような姿を望みますか。
 次の中からあてはまるもの5つ以内に○をつけてください。

- 1 大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの公害のないまち
- 2 自然環境が保全され生きものともふれあえるまち
- 3 公園、街路樹など市街地の緑が豊かなまち
- 4 身近に林や田園風景が広がっているまち
- 5 海や川などのきれいな水辺環境に親しめるまち
- 6 歴史的・文化的資源が残され、歴史的な雰囲気のあるまち
- 7 ごみの減量やリサイクル、適正処理に積極的に取り組むまち
- 8 省エネルギーや風力・太陽光など自然エネルギーの利用に率先して取り組むまち
- 9 地球温暖化対策など地球規模の課題にも率先して取り組むまち
- 10 事業者や市民のモラルが高く、皆が一体となって環境問題に取り組むまち
- 11 周囲の環境に積極的に配慮しながら、都市づくりをすすめるまち
- 12 その他（具体的に_____）

解析結果

望ましい秋田市の環境像については、「大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの公害のないまち」と「事業者や市民のモラルが高く、皆が一体となって環境問題に取り組むまち」の2項目が17団体(50.0%)で最も高い回答となりました。次いで「海や川などのきれいな水辺環境に親しめるまち」「歴史的・文化的資源が残され、歴史的な雰囲気のあるまち」の2項目が16団体(47.1%)の回答となっています。

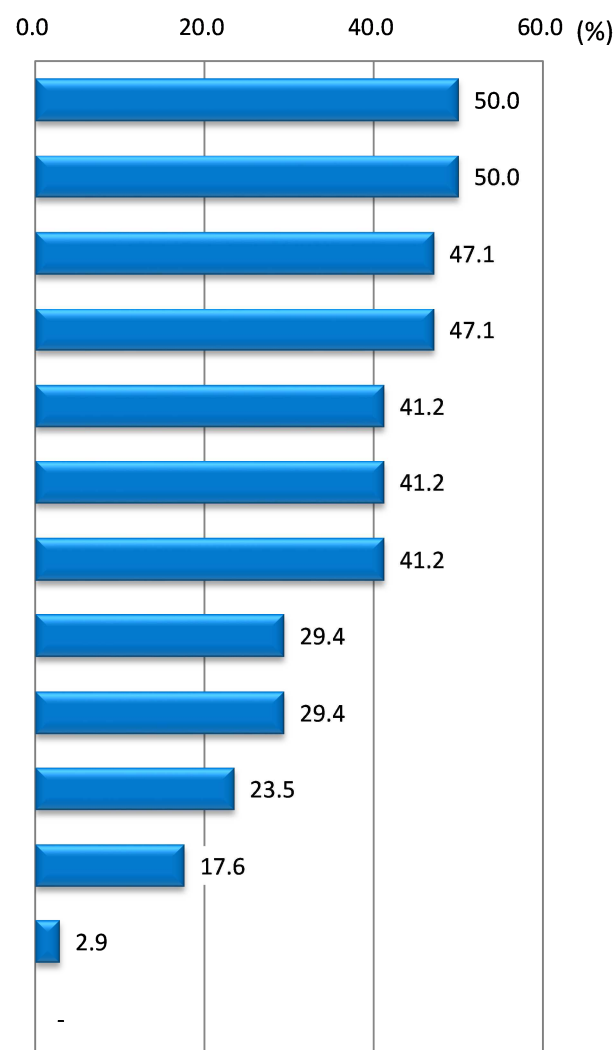
一方、最も低い回答は「地球温暖化対策など地球規模の課題にも率先して取り組むまち」6団体(17.6%)でした。【表7参照】

「その他」には、「環境立市秋田として、全国のリーディングCityとなるまち。」という回答が挙げられました。

表 7

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	1 大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの公害のないまち		17	11.9%	50.0%
2	10 事業者や市民のモラルが高く、皆が一体となって環境問題に取り組むまち		17	11.9%	50.0%
3	5 海や川などのきれいな水辺環境に親しめるまち		16	11.2%	47.1%
4	6 歴史的・文化的資源が残され、歴史的な雰囲気のあるまち		16	11.2%	47.1%
5	3 公園、街路樹など市街地の緑が豊かなまち		14	9.8%	41.2%
6	7 ごみの減量やリサイクル、適正処理に積極的に取り組むまち		14	9.8%	41.2%
7	8 省エネルギーや風力・太陽光など自然エネルギーの利用に率先して取り組むまち		14	9.8%	41.2%
8	2 自然環境が保全され生きものともふれあえるまち		10	7.0%	29.4%
9	11 周囲の環境に積極的に配慮しながら、都市づくりをすすめるまち		10	7.0%	29.4%
10	4 身近に林や田園風景が広がっているまち		8	5.6%	23.5%
11	9 地球温暖化対策など地球規模の課題にも率先して取り組むまち		6	4.2%	17.6%
12	12 その他		1	0.6%	2.9%
	無回答		-	-	-
	計		143	100.0%	420.6%

図 7



問 8 秋田市の環境対策の仕組み・取組の変化についてお伺いします。

設 問 内 容

問 8 過去5年のうち、市民生活や事業活動における環境への影響を少なくしようとする秋田市の仕組みや取組がどのように変化したと感じられるかお伺いします。
次の中から貴団体が感じている状況に近いものを1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 環境への影響を少なくしようとする仕組みや取組が十分に行われている
- 2 環境への影響を少なくしようとする仕組みや取組が徐々に行われるようになってきている
- 3 以前と変わらない
- 4 環境への影響を少なくしようとする仕組みや取組が以前より悪くなっている
- 5 わからない

解 析 結 果

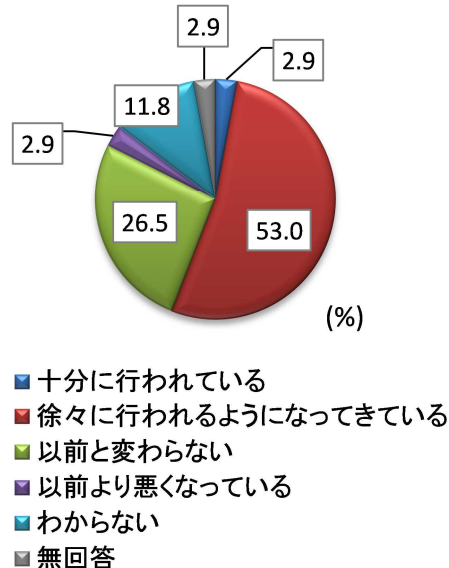
秋田市の取組の変化については、「徐々に行われるようになってきている」18団体(53.0%)が最も高い回答となりました。次いで「以前と変わらない」9団体(26.5%)、「わからない」4団体(11.8%)の回答となりました。また、「十分に行われている」と「以前より悪くなっている」がともに1団体(2.9%)の回答となりました。【表 8①参照】

団体調査で「わからない」が約1割ある点については、行政と環境活動団体の情報連携方法や連携体制に課題が見られます。

表 8

項目	N=34	回答数	回答率
1 十分に行われている		1	2.9%
2 徐々に行われるようになってきている		18	53.0%
3 以前と変わらない		9	26.5%
4 以前より悪くなっている		1	2.9%
5 わからない		4	11.8%
無回答		1	2.9%
計		34	100.0%

図 8



問9 環境関連活動についてお伺いします。

設問内容

問9-1 環境問題に関する学習会・講演会や環境保全活動等の機会を設けていますか。
次の中から貴団体の状況やお考えを1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 既に設けている
- 2 ぜひ設けたい
- 3 できれば設けたい
- 4 特に考えていない

解析結果

学習会・講演会や環境保全活動等の機会については、「既に設けている」が15団体(44.1%)で最も高い回答となりました。次いで「特に考えていない」が8団体(23.5%)、「できれば設けたい」が7団体(20.6%)となり、「ぜひ設けたい」の回答はありませんでした。

「既に設けている」と「できれば設けたい」を合わせると22団体(64.7%)となっています。

【表9-1参照】

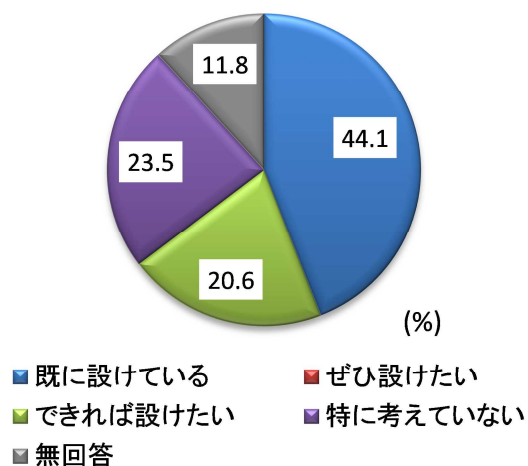
活動団体は、スタッフ10人以下の小規模な団体が13団体(38.4%)でおよそ4割を占めています。【表12-2参照】

小規模な団体については、自らが学習会を開催することが難しいことから、市に対して「環境教育の充実」を求めることで、学習会・講演会や環境保全活動等の機会について積極的な回答がなかったものと推察されます。

表9-1

項目	N=34	回答数	回答率
1 既に設けている		15	44.1%
2 ぜひ設けたい		-	-
3 できれば設けたい		7	20.6%
4 特に考えていない		8	23.5%
無回答		4	11.8%
計		34	100.0%

図9-1



設問内容

問9-2 前の質問で、「1 既に設けている」、「2 ぜひ設けたい」又は「3 できれば設けたい」を選んだ方にお伺いします。どのようなテーマについて学習や活動の場を設けていますか。又は、設けたいと思っていますか。
次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 ごみ減量
- 2 地球温暖化
- 3 新エネルギー・省エネルギー
- 4 環境にやさしいものづくり（廃油石けんなど）の体験学習
- 5 人と自然との共生
- 6 自然環境・生物多様性の保全
- 7 テーマは決めていない
- 8 その他（具体的に_____）

解析結果

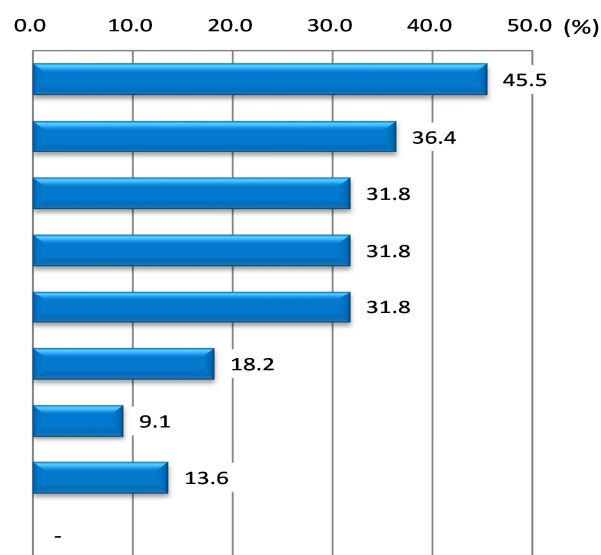
前問9-1で学習・活動の機会を「設けている、又は設けたい」と回答した22団体に、活動テーマについて回答を求めたところ、「人と自然との共生」が10団体(45.5%)で最も多いテーマとなっています。次いで「地球温暖化」が8団体(36.4%)、「ごみ減量」、「新エネルギー・省エネルギー」、「自然環境・生物多様性の保全」の3テーマに7団体(31.8%)と広い分野の回答がありました。また、「テーマは決めていない」と2団体(9.1%)が回答しています。

「その他」には、「土や水の環境に関する学習会（小学生4～6年と保護者）を開催。」「月一回の周辺地域のゴミ拾い活動。Ex 秋は落ち葉拾い等。」「花とのふれあい」という回答が挙げられました。

表9-2

	項目	N=22	回答数	構成比	回答率
1	5 人と自然との共生		10	20.7%	45.5%
2	2 地球温暖化		8	16.7%	36.4%
3	1 ごみ減量		7	14.6%	31.8%
4	3 新エネルギー・省エネルギー		7	14.6%	31.8%
5	6 自然環境・生物多様性の保全		7	14.6%	31.8%
6	4 環境にやさしいものづくり（廃油石けんなど）の体験学習		4	8.3%	18.2%
7	7 テーマは決めていない		2	4.2%	9.1%
8	8 その他		3	6.3%	13.6%
	無回答		-	-	-
	計		48	100.0%	218.2%

図9-2



設問内容

問9-3 市民の環境学習を推進するためには、次のうちの主体の役割が今後重要になってくると思いますか。
次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 市民個人
- 2 地域（自治会など）
- 3 小中学校、高等学校
- 4 大学
- 5 環境保全や環境活動に取り組む団体
- 6 企業
- 7 国や県、市町村
- 8 その他（具体的に_____）

解析結果

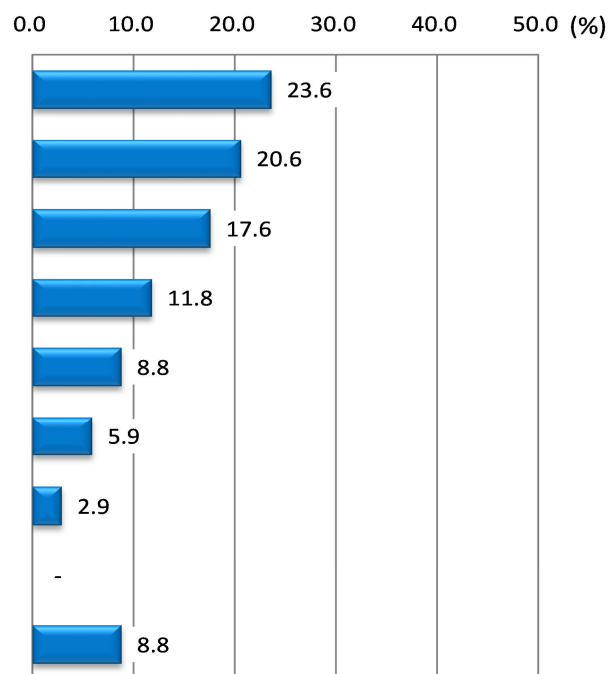
市民の環境学習の推進のためには、どこが主体的役割となることが重要かについては、「小中学校、高等学校」（8団体 23.6%）が最も高い回答となりました。次いで「環境保全や環境活動に取り組む団体」（7団体 20.6%）、「地域（自治会など）」（6団体 17.6%）、「市民個人」（4団体 11.8%）の回答となっています。

次世代向けの環境教育を担う学校の役割が重要であると同時に、環境保全や環境活動に取り組む団体自らの役割も重要との結果となりました。

表 9-3

	項目	N=34	回答数	回答率
1	3 小中学校、高等学校		8	23.6%
2	5 環境保全や環境活動に取り組む団体		7	20.6%
3	2 地域（自治会など）		6	17.6%
4	1 市民個人		4	11.8%
5	7 国や県、市町村		3	8.8%
6	4 大学		2	5.9%
7	6 企業		1	2.9%
8	8 その他		-	-
	無回答		3	8.8%
	計		34	100.0%

図 9-3



設問内容

問9-4 環境学習の推進のため、どのような取組を行うことが最も効果的であると思いますか。
次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 自己学習を推進するための教材の充実
- 2 環境学習の重要性についての情報発信
- 3 環境学習を推進する人材の育成
- 4 環境学習を推進する人材同士のネットワーク構築
- 5 大人向けの環境学習の機会（講座や研修）の充実
- 6 子ども向けの環境学習の機会の充実
- 7 環境学習施設の整備や充実
- 8 その他（具体的に_____）

解析結果

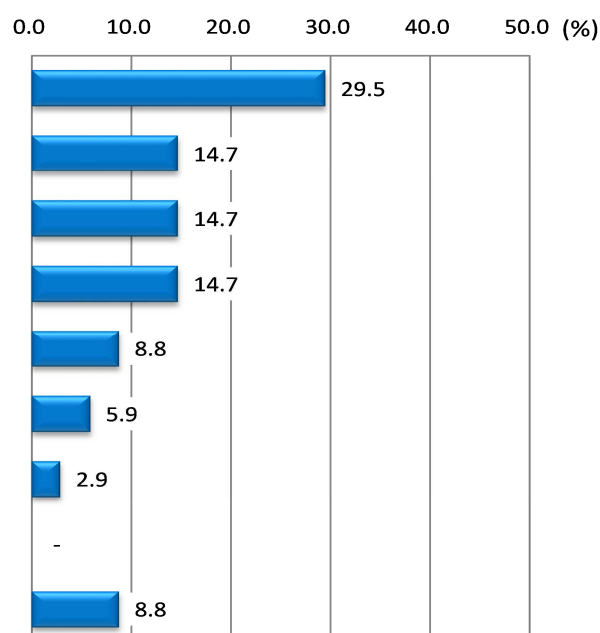
環境学習の推進のための効果的な取組については、「子ども向けの環境学習の機会の充実」が10団体(29.5%)で最も高い回答となりました。次いで「環境学習の重要性についての情報発信」「環境学習を推進する人材の育成」「環境学習施設の整備や充実」の3項目が5団体(14.7%)の回答となりました。

ここでも環境教育の重要性が強調されています。

表 9-4

	項目	N=34	回答数	回答率
1	6 子ども向けの環境学習の機会の充実		10	29.5%
2	2 環境学習の重要性についての情報発信		5	14.7%
3	3 環境学習を推進する人材の育成		5	14.7%
4	7 環境学習施設の整備や充実		5	14.7%
5	5 大人向けの環境学習の機会（講座や研修）の充実		3	8.8%
6	4 環境学習を推進する人材同士のネットワーク構築		2	5.9%
7	1 自己学習を推進するための教材の充実		1	2.9%
8	8 その他		-	-
	無回答		3	8.8%
	計		34	100.0%

図 9-4



問 10 環境活動を進めるにあたり市に望む取組についてお伺いします。

設 問 内 容

問 10 各種団体が環境関連活動をさらに進めていく上で、市はどのような取組に力を入れていくことが望ましいと思いますか。

次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 事業者や団体の取組への資金援助、技術開発への支援
- 2 事業者や団体に対する各種の情報提供
- 3 事業者や団体が情報交換やネットワークづくりができる機会の提供
- 4 研修会の開催などによる人材育成の支援
- 5 環境に配慮した製品・サービスの購入や環境関連活動への参加を消費者へ促す仕組みづくり
- 6 その他（具体的に_____）

解 析 結 果

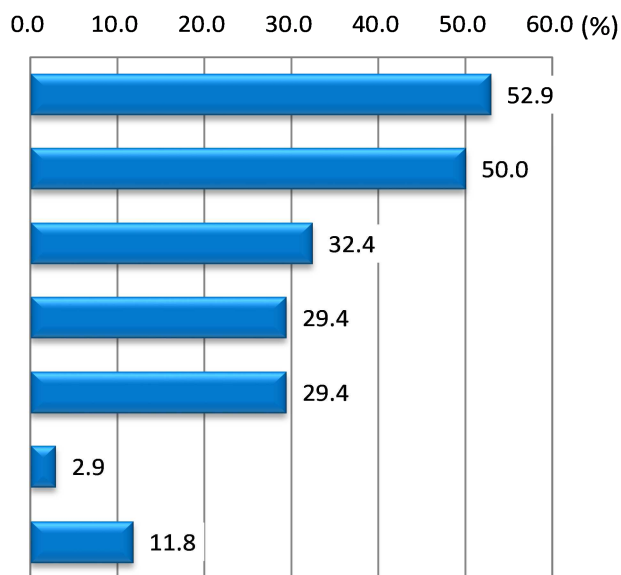
各種団体が環境関連活動をさらに進めるため市に望む取組については、「事業者や団体の取組への資金援助、技術開発への支援」が 18 団体(52.9%) で最も高く、次いで「事業者や団体が情報交換やネットワークづくりができる機会の提供」が 17 団体(50.0%) が 5 割の回答となっています。他の項目はおよそ 3 割の回答となっています。

「資金・技術支援」、「交流ネットワークづくり」へのニーズが特に高いことがうかがえます。

表 10

	項目	N=34	回答数	構成比	回答率
1	1 事業者や団体の取組への資金援助、技術開発への支援		18	25.4%	52.9%
2	3 事業者や団体が情報交換やネットワークづくりができる機会の提供		17	23.9%	50.0%
3	5 環境に配慮した製品・サービスの購入や環境関連活動への参加を消費者へ促す仕組みづくり		11	15.5%	32.4%
4	2 事業者や団体に対する各種の情報提供		10	14.1%	29.4%
5	4 研修会の開催などによる人材育成の支援		10	14.1%	29.4%
6	6 その他		1	1.4%	2.9%
	無回答		4	5.6%	11.8%
	計		71	100.0%	208.8%

図 10



問 1 1 自由記述によるご意見をお伺いします。**設 問 内 容**

問 1 1 団体の皆さんが、現在、困っていることなど、今後、より活動しやすくなるようなご意見などを自由にお書きください。

解 析 結 果

有効回収 34 件から 8 団体 8 件の意見がありました。
記述内容は以下のとおりです。

分類 コード	分類名称	件数
5	空家・空店舗・空地(休耕田)	1
22	事業者・環境団体支援	4
23	環境団体後継者問題	3
	合計	8

問 1 2 回答者について

設 問 内 容

問 1 2 - 1 貴団体の設立時期

(西暦) _____ 年 _____ 月

解 析 結 果

設立時期については、2005年以降に設立した新しい団体が19団体(56.0%)で半数を占めています。「2010年以降」の設立数が10団体(29.5%)で、「1995年～1999年」設立数の5倍にあたり、1995年以降、新設団体は増加傾向にあります。【表 12-1 参照】 また、1989年までに設立され長期にわたり活動している団体が6団体(17.6%)あり、1946年に最も早く設立された団体は、「省エネルギーや資源の循環の推進に関する活動」、「ごみ分別の学習」を主体に活動しているスタッフ人員600人の大規模団体です。

表 12-1①

項目	N=34	回答数	回答率
1 1989年まで		6	17.6%
2 1990年～1994年		1	2.9%
3 1995年～1999年		2	5.9%
4 2000年～2004年		5	14.7%
5 2005年～2009年		9	26.5%
6 2010年以降		10	29.5%
不明		1	2.9%
計		34	100.0%

図 12-1①

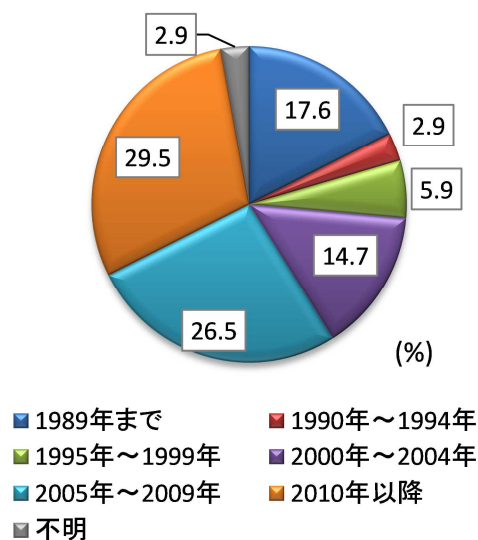
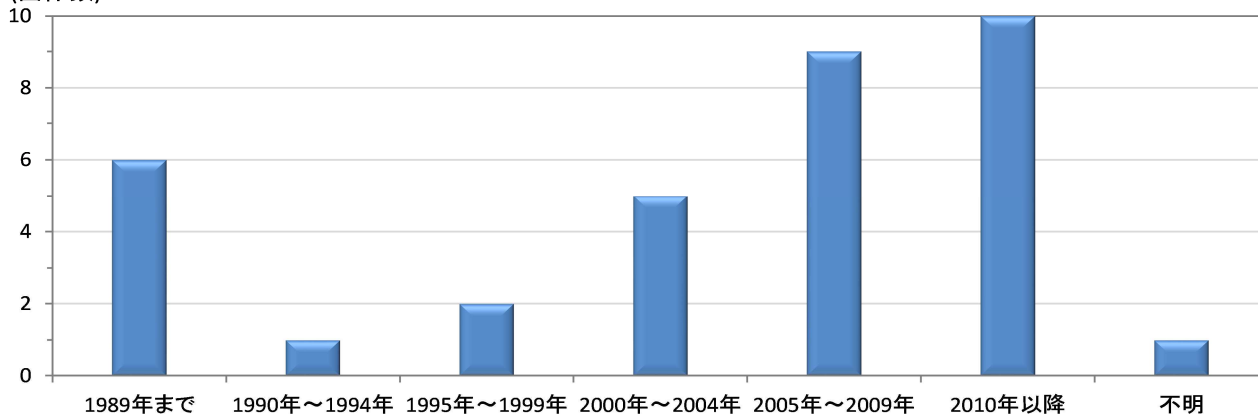


図 12-1②

(団体数)



設問内容

問12-2 貴団体のスタッフ人員

(スタッフ人員) _____人

解析結果

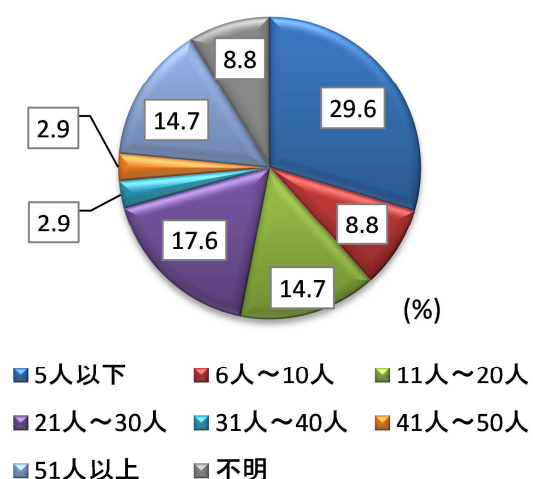
団体のスタッフ人員については、「5人以下」が10団体(29.6%)で最も高く約3割を占めています。次いで「21人～30人」が6団体(17.6%)、「11人～20人」、「51人以上」が5団体(14.7%)となっています。

スタッフ人員10人以下の団体が13団体(38.4%)で約4割を占めています。【表12-2参照】

表12-2

項目	N=34	回答数	回答率
1 5人以下		10	29.6%
2 6人～10人		3	8.8%
3 11人～20人		5	14.7%
4 21人～30人		6	17.6%
5 31人～40人		1	2.9%
6 41人～50人		1	2.9%
7 51人以上		5	14.7%
不明		3	8.8%
計		34	100.0%

図12-2



設問内容

問12-3 貴団体の主な活動の名称と活動地区（具体的な地区名）を記述してください（5つ以内）。

1.	活動名称 _____	活動地区 (_____)
2.	活動名称 _____	活動地区 (_____)
3.	活動名称 _____	活動地区 (_____)
4.	活動名称 _____	活動地区 (_____)
5.	活動名称 _____	活動地区 (_____)

解析結果

団体の活動状況としては、活動1つの活動団体が13団体(39.4%)と最も多く、他の団体は2つ以上の活動を行っており、5つ以上の活動が7団体(21.2%)となっています。【表12-3①】

環境活動名称と場所については、33団体から活動名称86件が挙げられ、国外や県外での活動が5件（うち活動場所無記入1件含む）、県内活動は81件ありました。県内活動のうち7割を占める56件が秋田市内で活動しています。【表12-3②】

活動場所では、市内全域の活動と特定地域（特定場所）の活動が半数の28件ずつとなっています。特定場所としては「秋田駅前(2件)」「千秋公園(1件)」「大森山動物園(1件)」「八橋地区草生津川護岸(1件)」が挙げられました。その他の特定場所は、各地域の活動(8件)となっています。【表12-3②】

表12-3① 市内活動場所

活動数	回答 団体数	回答 団体数 割合	活動数	活動数 割合
1	13	38.2%	13	15.1%
2	5	14.7%	10	11.6%
3	4	11.8%	12	14.0%
4	4	11.8%	16	18.6%
5	7	20.6%	35	40.7%
無回答	1	2.9%	-	-
合計	34	100.0%	86	100.0%

表 12-3② 県内活動場所（秋田市除く）

団体から回答のあった活動場所を市内特定地域、市内全域、市外（特定市町村、県内、県外、国外）に分類し、その活動数を記載しています。

活 動 場 所		対 象	活 動 数
国内			84
県内			81
県内全域		高校生	14
		小・中学生、一般	1
		中・高校生	2
他市町村			6
由利本荘市			1
にかほ市			1
潟上市			1
八郎湖			1
八峰町			1
男鹿市			1
秋田市			56
市内全域		小・中学生	25
(他市含む)		潟上市、男鹿市	2
地域限定			1
秋田駅前			28
千秋公園			2
大森山動物園			1
土崎地区			1
大町地区			4
太平地区			1
飯島地区（新町一丁目～二丁目）			3
新屋地区			4
雄和地区			1
泉地区			1
金足地区			2
八橋地区			7
八橋地区			1
(草生津川護岸)			1
(寺内地区含む)			4
(保戸野地区、外旭川地区含む)			1
県外			3
東京都 品川区、他			2
長崎県 壱岐市			1
海外			1
中国			1
不明			1
合計		回答数 34 団体 (活動団体数) 33	86

表 12-3③ 活動名称一覧

	名称	場所		名称	場所
1	SAVE・JAPANプロジェクト	県内全域	46	ソポルティフ秋田 サッカー、水泳、ヨガ、ミニテニス、フラダンスなどのスポーツ	秋田市内
2	秋田県地球温暖化防止活動人材育成事業	県内全域	47	中小企業振興支援 まちづくり活動	秋田市内
3	秋田県花いっぱい運動の会	県内全域	48	作って満足、ほくと私の夏の工作	秋田市内
4	空き家、空き地の活用と見守りサポート	県内全域	49	春・秋全国交通安全中央集会	秋田市内
5	エコノミクス甲子園秋田大会	県内全域(高校生)	50	東日本大震災避難者支援	秋田市内
6	介護保険を劇団形式で分かりやすく住民に説明会	県内全域	51	福祉の推進	秋田市内
7	環境学習ツールの開発・貸出し	県内全域	52	複十字シール募金活動	秋田市内
8	環境技術に関する教育・啓発	県内全域	53	夕日の松原クリーンアップ	秋田市内、潟上市、男鹿市
9	環境講座講師派遣活動	県内全域	54	リーダー研修会	秋田市内
10	環境省 二酸化炭素排出抑制対策事業	県内全域	55	緑化コンクール	秋田市内
11	サイエンスキッズ集合	県内全域(小・中学生、一般)	56	雄和地域一斉清掃	雄和地区
12	情報発信・活動サポート	県内全域	57	環境美化部	泉地区
13	地域の会のレストランネットワーク	県内全域	58	秋田グリーンサム倶楽部(杜づくり事業)	金足地区
14	地球温暖化防止活動推進センター	県内全域	59	小泉潟クリーンアップ	金足地区
15	チャレンジフェスティバル	県内全域(小・中学生、一般)	60	環境、景観向上活動	八橋地区、寺内地区
16	中・高生小説大賞	県内全域(中・高校生)	61	草生津川クリーンアップ	八橋地区(草生津川護岸)
17	土や水の浄化等の環境技術に関する研究開発	県内全域	62	ごみ減量、家庭内燃料等のエコ活動	八橋地区、保戸野地区、外旭川地区
18	特定非活動法人 グリーン・ウェイブ	県内全域	63	コミュニティ推進活動	八橋地区、寺内地区
19	リケジョをめざそうin秋田	県内全域(中・高校生)	64	小学校間交流活動	八橋地区、寺内地区
20	エコの森づくり学習会	由利本荘市	65	地域清掃活動	八橋地区
21	にかほ高原観光道路のクリーンアップ作戦	にかほ市	66	まちづくり活動	八橋地区、寺内地区
22	杜づくり、沿道緑花事業	潟上市	67	オーガニックフェスタinあきた	土崎地区(セリオン)
23	外来魚駆除: 八郎湖を守ろう	八郎湖	68	オーガニックランド	土崎地区(セリオン)
24	八森の漁業を考えるシンポジウム～地球活性化は藻場づくりから～	八峰町	69	お祭り前神社周辺清掃活動	土崎地区
25	北浦の漁業を考えるシンポジウム～地球活性化は藻場づくりから～	男鹿市	70	春秋町内清掃活動	土崎地区
26	あいさつ運動	秋田市内(小・中学生)	71	周辺地域の清掃活動	大町地区
27	秋田駅前を花で飾ろう運動	秋田駅前	72	EMボカンによる生ゴミの堆肥化	太平地区
28	秋田市環境活動推進協議会	秋田市内	73	愛媛A1-2による生ゴミの堆肥化	太平地区
29	秋田市多世代対応エコアクションポイント制度普及促進活動	秋田市内	74	春秋地区内除草	太平地区
30	秋田市多世代対応エコアクション・ポイント制度普及促進コンソーシアム	秋田市内	75	環境保健に関すること	飯島地区(新町一丁目～二丁目)
31	エコッキング	秋田市内	76	交通防犯に関すること	飯島地区(新町一丁目～二丁目)
32	エコマイスター及び一般市民を対象にした環境改善活動の研修会	秋田市内	77	体育(スポーツトレク)に関すること	飯島地区(新町一丁目～二丁目)
33	科学物質と食品	秋田市内	78	文化厚生に関すること	飯島地区(新町一丁目～二丁目)
34	くらしと環境問題	秋田市内	79	希少魚の調査: 在来魚を調査しよう	大森山動物園
35	グリーンコンシューマー全国ネット加盟とスーパー調査	秋田市内	80	希少魚保全: 千秋公園にすむ魚たちを調べる	千秋公園
36	結核予防活動	秋田市内	81	松林再生活動	新屋地区
37	市、一斉清掃運動	秋田市内	82	海藻おしぼ体験教室	東京都
38	市議会傍聴	秋田市内	83	多摩川河口の干潟観察会	東京都
39	児童・生徒作品コンクール	秋田市内(小・中学生)	84	海の森づくり第14回シンポジウム	長崎県
40	市内ゴミ清掃	秋田市内	85	特定非営利活動法人アルカリ土壌改良推進ネットワーク(2017年3月31日に法人解散。申請手続中)	中国国内
41	シニア世代の交流とスキルアップ	秋田市内	86	環境技術に関する相談・指導	
42	消費者問題研修会	秋田市内			
43	初期投資ほぼ0円でエコオフィス推進活動	秋田市内			
44	清掃活動	秋田駅前			
45	千秋公園のクリーンアップ作戦	秋田市内			